

三方沙弥、園臣生羽の女を娶きて、未だ幾の時も経ねば、病に臥して作る歌三首

一二三番

たけばぬれ たかねば長き 妹が髪 二のころ見
ぬに 搔き入れつらむか

一二四番

人皆は 今は長しと たけと言へど 君が見し髪
乱れたりとも

一二五番

橘の 影踏む道の 八衢に 物をそ思ふ 妹に
逢はずして